

「出生体重の低下を起こさない妊婦の血中カドミウム濃度の検討：
子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に関する Q&A

第 1.0 版（2026 年 4 月 7 日）

1. Q&A について

本文章は、「出生体重の低下を起こさない妊婦の血中カドミウム濃度の検討：

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の報道発表を補足することを目的として作成したものです。内容は、著者の見解であり、環境省及び国立環境研究所の見解ではありません。

2. Q&A

Q：この研究の結果はどのように解釈するべきでしょうか。

A：食品安全委員会が示すカドミウムの安全な摂取量である耐容週間摂取量は、出生体重への影響を鑑みた場合にも安全な値である可能性が高いことが分かりました。

Q：カドミウムばく露がなぜ有害な妊娠転帰を引き起こすのですか。

A：カドミウムが妊娠に対して起こす影響には、さまざまなメカニズムが関連しています。例えば、胎盤に対する影響や亜鉛などの必須元素の働きに対する影響などがあげられます。

Q：カドミウムの血中濃度を妊婦や一般の人が調べることはできますか。

A：通常の診療で測定が行われているわけではありませんが、特殊なケース（カドミウム中毒が疑われる場合など）には、医療機関等で相談の上で検査する場合があります。

Q：出生コホート調査とは何ですか。

A：出生コホート調査とは、特定の時期に生まれた子どもたちの集団（コホート）を対象に、長期間に渡って継続的に追跡調査を行う研究手法のことです。「エコチル調査」もこの種類の調査の一種と言えます

Q：エコチル調査とは何ですか。

A：エコチル調査とは、環境省が実施している日本中で約 10 万組の子どもたちとそのご両親に参加していただいている大規模な疫学調査で、「子どもの健康と環境に関する全国調査」

が正式名称です。エコチル調査は、環境要因が子どもたちの成長・発達にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的としています。

Q：エコチル調査が始まってから結果が出るまで 10 年以上経過しています。時間がかかったのはなぜですか。

A：化学分析には多額の予算が必要なため、調査にかかる予算との調整を行いながら、測定を進めているため、時間がかかります。また、分析結果は第三者機関を交えた品質管理を行っているため、結果確定に時間がかかります。さらに、論文は第三者の専門家による内容の審査を受けるため、その過程でも時間がかかります。

3. 参考文献

食品安全委員会汚染物質評価書カドミウム（第3版）

4. 改訂履歴

改定日	改定内容
第 1.0 版（2026 年 4 月 7 日）	初版公開

5. 本文章に関する問い合わせ先

国立研究開発法人国立環境研究所

エコチル調査コアセンター

次長 中山祥祠

E-mail：jecs-pr（末尾に@nies.go.jp をつけてください）

※お寄せいただいたご質問などは、編集の上で公開させていただくことがあります。